

教育長 殿

宮城県本吉響高等学校
校長 佐藤 正敏 印

令和5年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

| | |
|-------------------|---------------------|
| ○基礎学力の向上と家庭学習の習慣化 | ～自ら学ぶ姿勢の育成を目指して～ |
| ○規範意識の涵養と思いやる心の育成 | ～凡事徹底の意識向上を目指して～ |
| ○進路実現に向けた主体的行動の促進 | ～第一志望進路決定100%を目指して～ |
| ○自然や人との共生 | ～心豊かな人間の育成を目指して～ |

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

| 評価分野 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|------------------|--------------------------------|--|--|----------|---------|
| | | 自己評価結果 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 学習指導 | ① 研究授業や学び合いをとおした授業力向上について | B | 生徒の理解度には年次進行と共に低下傾向が認められる。学習意欲・理解度の向上のためICTの有効活用など授業研究の機会を設け授業力の向上につなげる。 | B | A |
| | ② 個に応じた学習指導 | A | 年次を中心にした定期考査前の個別学習指導に加え、考査後に再指導の機会を設けることで一定の効果をあげた。次年度は継続的なフォロー体制の構築を図る。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会における意見 | | ○個に応じた指導体制は高く評価できる。ICT研修などを通してさらなる授業力向上を期待する。 ○総合学科の特色を生かし生徒の実態に応じた新たな学校設定科目等についても検討いただきたい。 | | | |
| 生徒指導 | ① 生徒が安全・安心に過ごせる学校づくりについて | B | 生徒保護者とも生徒指導全般への評価は昨年度を上回った。災害、防犯、交通安全など非常時への対応力を高めるため引き続き防災や安全教育を徹底する。 | A | B |
| | ② いじめ防止対策の周知について | A | 生徒・保護者の肯定的評価は昨年度比8ポイント上昇した。講話やLHRの話し合いを通して自己・他者理解を図るなど多くの場面をとらえ未然防止にあたる。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会における意見 | | ○生徒の挨拶をする姿に日頃の生徒指導の成果が現れている。今後も良い習慣づけの継続を望む。 ○地域と連携した訓練なども検討しながら、引き続き安全安心な学校環境づくりを推進して欲しい。 | | | |
| 進路指導 | ① 進路実現への意欲向上支援について | A | きめ細かな進路相談と地学地就コーディネーターとの連携により進路達成率は高い水準を保っている。今後も生徒の自己理解を深める指導を工夫していきたい。 | A | A |
| | ② 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の活用について | B | 「産業社会と人間」での外部講師の活用についてより有効性を考慮していく。「総合的な探究の時間」における指導力向上の研修会機会を充実させたい。 | A | B |
| 学校関係者評価委員会における意見 | | ○生徒の進路実現に向けた適切な指導が行われている様子が今年度の進路実績にも現れており、今後も個に応じた進路指導の継続を期待する。 ○将来地域を支える人材づくりの視点を大切にして欲しい。 | | | |
| 地域連携 | ① 学校情報の積極的な発信について | B | 学校HPに関してトップページを一新するなどリニューアルを行った。多くの職員が随時情報発信を行う体制が定着しており引き続き活発な更新に努める。 | A | A |
| | ② 特色ある学校づくりについて | B | 特色ある学校づくりについて、生徒・保護者ともに学校評価の肯定的評価は上昇した。次年度も引き続き専門教科を中心に地域連携の機会を拡充させていく。 | B | A |
| 学校関係者評価委員会における意見 | | ○学校公開の機会を増やすなど、さらなる地域連携について推進していくことを期待する。 ○苗販売をはじめ地域に定着した活動について高く評価する。特色ある学校づくりを深化する挑戦を継続して欲しい。 | | | |

3 次年度の課題と改善方策

| 次年度の課題 | 改善方策 |
|-----------------|---------------------------------------|
| ① ICTを活用した授業づくり | 「ロイロノート」の有効活用や授業配信等を視野に入れた研修機会の充実を図る。 |
| ③ 個に応じた進路希望の達成 | 生徒の自己理解を深めながら総合学科の特徴を生かした進路指導体制を整備する。 |
| ④ 特別活動の活性化 | 学校行事や生徒会活動等について、生徒の意見を反映しながら活性化を図る。 |